

【A年】

聖霊降臨後第十四主日

特定十八

主よ、どうか主の民に世と肉と悪魔との誘惑に勝つ恵みを与え、清い心と意思をもって、唯一の神に従うことができませうに、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はエゼキエル書第三十三章七節から」

7人の子よ、わたしはあなたをイスラエルの家の見張りとした。あなたが、わたしの口から言葉を聞いたなら、わたし

の警告を彼らに伝えねばならない。8わたしが悪人に向かつて、『悪人よ、お前は必ず死なねばならない』と言うとき、あなたが悪人に警告し、彼がその道から離れるように語らないなら、悪人は自分の罪のゆえに死んでも、血の責任をわたしはお前の手に求める。9しかし、もしあなたが悪人に対してその道から立ち帰るよう警告したのに、彼がその道から立ち帰らなかつたのなら、彼は自分の罪のゆえに死に、あなたは自分の命を救う。

10人の子よ、イスラエルの家に言いなさい。お前たちはこう言っている。『我々の背きと過ちは我々の上であり、我々はやせ衰える。どうして生きることができようか』と。11彼らに言いなさい。わたしは生きています、と主なる神は言われる。わたしは悪人が死ぬのを喜ばない。むしろ、悪人がその道から立ち帰って生きることが喜ぶ。立ち帰れ、立ち帰れ、お前たちの悪しき道から。イスラエルの家よ、どうしてお前たちは死んでよいだろうか。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第一一九編 四一節〜四八節

- 41 主よ、仰せのとおり＝ 慈しみと救いをもたらしてください
さい
- 42 わたしはあなたのみ言葉に寄り頼み＝ ののしる者に答え
る
- 43 わたしの口から真理の言葉を取り去らないでください＝
わたしはあなたの審きを待ち望む
- 44 わたしはいつまでも＝ あなたの教えを守る
- 45 あなたの定めを学んだわたしは＝ 今、自由に生きる
- 46 わたしははばかることなく＝ 王たちの前であなたの諭し
を語る
- 47 あなたの勧めを喜びとし＝ 何にもまして大切にす
める
- 48 愛するあなたの勧めを抱き＝ あなたのおきてに思いを潜
める

使徒書

朗読者 「使徒書はローマの信徒への手紙第十二章九節から」

9 愛には偽りがあつてはなりません。悪を憎み、善から離
れず、10 兄弟愛をもつて互いに愛し、尊敬をもつて互いに相手
を優れた者と思いなさい。11 怠らず励み、霊に燃えて、主
に仕えなさい。12 希望をもつて喜び、苦難を耐え忍び、たゆ
まず祈りなさい。13 聖なる者たちの貧しさを自分のものとし

て彼らを助け、旅人をもてなすよう努めなさい。14 あなたが
たを迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るの
であつて、呪つてはなりません。15 喜ぶ人と共に喜び、泣
く人と共に泣きなさい。16 互いに思いを一つにし、高ぶらず、
自分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれ
てはなりません。17 だれに対しても悪に悪を返さず、すべて
の人の前で善を行うように心がけなさい。18 できれば、せ
めてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい。19 愛
する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。
『復讐はわたしのすること、わたしが報復する』と主は言
われる」と書いてあります。20 「あなたの敵が飢えていたら食
べさせ、渴いていたら飲ませよ。そうすれば、燃える炭火を彼
の頭に積むことになる。」21 悪に負けることなく、善をもつ
て悪に勝ちなさい。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。

（二）で聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖マタイによる福音書第十八章十五節以下に記された主イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

15 「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。16 聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。17 それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れられないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なしなさい。」

18 はつきり言っておく。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつなぐられ、あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。19 また、はつきり言っておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。20 二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」